
火事のとき。

unbelievable_kazoo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

火事のとき。

【Zコード】

N5722U

【作者名】

unbelievable_kazoo

【あらすじ】

一発ネタです。もしもの時のために、きちんと「」確認を。

寝静まつた夜。とある庭付き一軒家で火事が発生した。

父、母、子ども一人が寝ていた。真っ先に一階の寝室にいた父がそのことに気が付き、すぐさま母を起こした。驚いた母は、隣の部屋で寝ている子ども一人をすぐさま起こしに行つた。

起きた四人は煙が一階に続く階段から流れ来ていることを知り、二階のベランダから脱出しようと試みる。まず、父がベランダから庭に飛び降り、それに続いて母も飛び降りた。そして子ども一人も飛び降り、四人はそのままそこから逃げて行つた。

台所が激しく燃え、煙が充満した一階。苦しそうに唸り声をあげるものがいた。

ふざけんじゃねえよ！ マジで！ 誰か助けてくれよ！ 僕が一番最初に気が付いたのに、何で誰も助けに来てくれないんだよ！ くつそ、マジ熱い！ 早く水、水、水！ くつそー、人間のバカヤロー！ スプリンクラーぐらいケチるなよーー！

ウー！ ウー！ ウー！ ウー！……

がんばれ、住宅用火災警報機。お前の悲痛な叫び声が、今日も火災から誰かを救う。

(後書き)

「JR拝讀ありがとうございました。」

一発ネタでした。部屋で寝そべつていて天井を見ていたら偶然思いつきました。

もしもの時に備えて、今度きちんと作動するかどうか確認してみたいなど書いてて思いました。

よひしければJR意見、「JR感想のほどよひよひお願いします。」

では、JRまで読んで下せつ、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5722u/>

火事のとき。

2011年10月8日23時27分発行